

1 今年度の具体的な取組と自己評価

重点目標	教育活動の具体的な取組と自己評価
<p>(1) 学習指導</p> <p>① 全教員が年1回以上授業公開を行い、1人2回以上他の教員の授業公開を参観する。他校で実施される指導教諭等の模範授業に参観し、教科内等で伝達研修や分析会を実施する。</p> <p>② 夏季講習は20講座を開講し、延べ200名以上を参加させる。読書活動を推進し、「高校生書評合戦首都大会2014」に参加する。</p> <p>③ 生徒による授業評価を年2回実施し、理解度・満足度において肯定的評価を80%以上とする。</p>	<p>① 全教員が年30回程度授業公開を行い、2回以上他の教員の授業を参観した。また、3名の教員の研究協定会を3回開催し、学校全体で授業改善を図った。さらに国・数・理・体・英の指導教諭の模範授業に参観し、教科内で伝達研修、授業研究を行った。</p> <p>② 夏季講習は9教科20講座を開講し、延べ562名が参加した。また、国語の授業に読書活動を取り入れ、「高校生書評合戦」東京都大会を突破し、首都大会に進出した。</p> <p>③ 7月と12月に生徒による授業評価を行った。7月は理解度84%、満足度90%、12月は理解度87%、満足度91%で肯定的評価が多数であった。</p>
<p>(2) 生活指導</p> <p>① 「授業を大切に」を第一に掲げ、全教員が授業規律の確保・維持に努め、授業開始時刻と同時に授業を始め、生徒に「時間を守る」意識を育成する。</p> <p>② 特別な支援が必要な生徒への生活指導について、カウンセリング委員会と連携して実施する。</p> <p>③ 毎日の清掃指導の充実を図り、来校者の清潔感に関する肯定的回答を90%以上とする。</p>	<p>① 今年度から「授業を大切にしよう」週間を6月及び2月に設定し、授業開始時刻・始終の挨拶・授業準備授業中の集中などを徹底した。学校評価で、教員の73%が「生徒は授業に意欲的に取り組んでいる」と回答した。</p> <p>② 毎週1回開催されたカウンセリング委員会において、特別な支援が必要な生徒の情報共有及び支援方法の検討を行った。今年度から配置された学校医（精神科医）相談（27名）、巡回相談員相談（24名）、児童相談所及び東京都教育相談センター等と連携し、生徒一人一人に合った支援・指導の充実を図った。</p> <p>③ 生徒会生徒による校内巡回を年に3回を行い、ごみ箱の分別等を調査し、生徒への喚起を行った。その結果、年3回の授業公開アンケートにおいて、全ての来校者（624名）が「清潔感がある（清掃が行き届いている）」と答えた。</p>
<p>(3) 進路指導</p> <p>① ハローワーク、サポートステーション等の地域機関と連携を深め、進路指導を充実させる。生徒との個人面談を3回以上、必要に応じて進路指導部を含めた保護者面談を実施し、個別指導を充実させ、自己の適性を見極める指導を行う。</p> <p>② 生徒の進路実現に向け、講習、補習、面接指導等を実施し、進路決定率80%以上とする。</p>	<p>① サポートステーションの職員を招へいた講演会等を実施し、地域機関との連携を深めた。また、3・4年次は、進路指導部を含めた四者面談を実施し、生徒一人一人の多様な進路指導を充実させた。さらに、特別な支援を必要とする生徒の就労支援担当者が中心となり、就職活動や卒業後の相談機関との連携等を行った。</p> <p>② 進路指導部が中心となり、「進路だより」を発行して1年次から進路意識を高めた。また、学級担任と連携し個別指導を徹底した。今年度はセンター試験利用の大学受験者が増加（4名から14名）したが、第一希望の大学を目指すための浪人も増えた。卒業時の進路決定率は、72.4%となった。</p>

<p>(4) 特別活動・部活動</p> <p>① I部、II部、III部の生徒が一堂に会する学校行事をより充実させ、体育祭・文化祭等への参加率を80%以上とする。</p> <p>② 生徒会活動・部活動を活性化させ、部活動加入率については65%以上、全国レベルの大会出場については2つ以上の部活動を目指す。</p>	<p>① 参加率は、体育祭86.4%、文化祭84.8%であった。今年度の文化祭は、1日目が悪天候のため入場者数734名（昨年度976名）であったが、2日目は1139名（昨年度1057名）となり合計1873名（昨年度2033名）で4年連続1500名を超え、大盛況であった。</p> <p>② 生徒会が中心となり、特別支援学校との文化祭交流、部活動交流、オープンフェスタを実施した。また、オープンフェスタでは生徒会が弁論大会に参加した。</p> <p>部活動では、5つの部で夏期合同合宿を行った。卓球部、柔道部が全国大会に出場し、卓球女子団体3位となった。さらに、東京都高等学校定時制通信制総合体育大会では、女子の部で優勝した。</p>
<p>(5) 健康づくり</p> <p>① 週5日間、カウンセリングルームにスクールカウンセラー、メンタルフレンドシップアドバイザーが常駐する体制を構築する。</p> <p>② 生徒対象に薬物乱用防止教室、情報モラル教室、交通安全教室、喫煙防止教室を開催する。保護者対象には、スクールカウンセラー等による講演会を開催する。</p>	<p>① 週1回のスクールカウンセラーのほかに、心理学を学ぶ大学院生7名をメンタルフレンドシップアドバイザーとして配置し、毎日カウンセリングルームに担当者が常駐する体制を作った。また、「精神科医の校医事業」及び「都立高等学校等への特別支援教育心理士巡回相談事業」を活用し、教育相談体制の充実を図った。</p> <p>② 深川警察署と連携した薬物乱用防止教室及びNTTと連携したネットに関わるトラブルの未然防止講演会等関係機関と連携した講演会を実施した。また、本校教育振興会が主催した保護者対象の思春期講座には多くの保護者が参加し、活発な情報交換が行われた。</p>
<p>(6) 募集・広報活動</p> <p>① 校内において、学校説明会を7回実施し、参加者数1000名以上とする。</p> <p>② 退職教職員等ボランティアも活用し、400名以上の個別学校見学へ丁寧に対応し、入試倍率において2倍以上を堅持する。</p>	<p>① 学校説明会を7回、授業公開週間を年間3回実施し、参加者合計1556名であった。また、ホームページを年間15回更新し、広報誌を8回発行して保護者及び来校者に配布した。</p> <p>② 個別学校見学は563名で、8年連続で400名を超えた。また、入試倍率は2.13倍となり、3年連続2倍以上、チャレンジスクールでは唯一2倍以上で8年連続最高倍率となった。</p>
<p>(7) 学校経営・組織体制</p> <p>① 教育職員と行政職員が密接な連携のもとに学校運営を進め、学校徴収金等の滞納者数をゼロとする。</p> <p>② 施設・設備の安全確認・効率的利用の視点から校内外を巡視し、より安全・安心な学校環境を整備し、不備による事故をゼロとする。町内会の一員として、地域ぐるみで地域を含めた防災教育の推進を図る。</p>	<p>① 教育職員と行政職員が協力して、学校徴収金滞納者へ働きかけ、ほとんどの生徒が納入した。また、入学者選抜及び入学手続等においても学校が一体となり、適切に対応できた。</p> <p>② 施設・設備の安全確認のため、管理職・経営企画室長による校内巡回及び教職員による校内巡回を毎日3回行い、安全な環境を整備した。また、防災教育推進委員会の外部委員を地域の消防団から招き、地域と連携した防災教育を推進した。</p>

※ 自己評価については、生徒による授業評価、学校運営協議会アンケート、学校見学者アンケートなどの結果による。

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 学習指導

- ① 分かりやすい授業を実現するため、「授業のユニバーサルデザイン化」についてさらに研究を進め、一歩進んだ学校全体での共通の指導方法等を確立する。
- ② 全ての生徒に対して、義務教育段階の学力を身に付けさせるために、学校全体で基礎学力向上と定着を図る。とくに自発学習へ向けた指導を充実させる。
- ③ 学力上位層に対して、適切な指導を行い更なる学力向上を目指す。

(2) 生活指導

- ① 「時間を守る」指導を定着させるために、遅刻指導を中心に指導體制の見直しを図る。
- ② 特別な支援が必要な生徒への生活指導について、教育支援委員会を中心に関係機関と連携しながら実施する。

(3) 進路指導

- ① 1・2年次からのコミュニケーション能力育成などキャリア教育をさらに充実させる。
- ② センター入試をはじめとする一般受験にも対応した組織体制を作る。
- ③ 障害のある生徒に対する適切な進路指導を充実させる。
- ④ 卒業後の移行支援を見据えての指導に取り組んでいく。

(4) 特別活動・部活動

- ① 生徒会・委員会組織を活性化し、生徒が主体的に行事に関わるよう指導を充実する。
- ② 部活動の加入率を高めるための指導を工夫・改善する。

(5) 健康づくり

- ① 心の健康づくりを充実させるために、スクールカウンセラーのコンサルテーションを生かすとともに関係機関との連携を強化する。
- ② 教育支援委員会を中心に全教員の共通理解のもと、組織的な指導を徹底する。

(6) 募集活動（地域交流等）

- ① 学校広報誌「大江戸かわらばん」を年間4回発刊するとともに、ホームページの充実を図る。
- ② 入学当初に中学校から生徒指導情報を引き継ぎ、生徒一人一人に丁寧に対応する。

(7) 学校経営・組織体制

- ① 校内研修を充実させ、学校経営計画に関する教職員の共通理解を一層高め、一貫した指導をする。
- ② 施設・設備の安全管理、非常時の危機管理体制を整備する。